

第十一回総会無事に終了

横浜市仏教連合会

みました。

命の法話

横浜市仏教連合会会長
柳下隆侃

昭和五十九年度第十一回市仏連合会は中区大平町「西有寺」様にて、五月二十三日（水）午後三時より開会された。

開会にあたり、まず市仏連副会長長佐藤泰心上人の開会のことばに引続き、会長の柳下隆侃老師の御挨拶をいただいて議事内容に入った。議長には、戸塚区仏教会会長の北見定賢老師、副議長には南、港南区仏教会会長の実浄文英老師が選任され、名議長ぶりを大いに発揮してくれた。

昭和五十八年度事業報告及び会計報告を専務理事の玄野孝善老師より発表され引継いで会計監査報告を行い全員の賛同を得て承認された。つづいて昭和五十九年度事業計画及び予算案について同専務理事より発表、これも無事承認された。その他の案件として、第一回仏跡参拝旅行の件の説明と御協力をお願いについて質疑をかさねながら、東海ビーエス観光（株）の神奈川営業所、所長馬川氏より細部に渡って説明全員の了承を得て実施に移す事となった。

閉会のことは、市仏連副会長森山正城老師に結んでいただき第十一回総会は無事終了した。

その後市仏連会長の御法話があり全員その悠長な話にひたり、心身を清めた気持ちで山道を下り帰宅の途についた。

その法話の要点を次にまとめて

本年は真言宗々祖弘法大師のご入定壹千五百拾年に相当し、高野山をはじめ真言宗各総大本山や各寺院に於いて、報恩謝徳の記念事業や大法要が厳修されました。

私達が平均して親が三十才で出生した子供であるとする、弘法大師ご入定の年以來三十九代になるわけでありませう。

そこで考えてみますと私達には両親があり、その両親には四人の両親があり、二十五代前には単純計算で三千三百五十五萬四千四百三十二人の血を受けた親があり、三十代前では十億七千三百七十四萬一千八百二十四人の血を受けた両親があり、三十九代前ともなれば大変な数になるわけでありませう。

私は刑務所に収容されている若い方々や、つっぱり青年と膝を交えて話しあいをしておりますと殆どの方々が、「俺は親の厄介にも、他人様のお世話にもなっていない、自分の意志と努力行動によつて生きているのだ」と言われますが、先にあげた様な祖先、親がなくて何で今日人間として生き生活出来るでしょうや。

昨年暮にマスコミの人達と会食した折に、皆様方もよくご存知の赤軍派闘志として浅間山荘事件其の他の問題を起して、アラブに逃亡されました方にインタビューされた話を聞きましたが、その方が日本におりました当時は左翼に洗脳されて、「私は親だとか日本人だとかそんな狭い気持なんか持つてなく、世界人民として行動しその理念のもとにアラブに協力して闘い、これに反する者にはかしくくない鉄槌をくだしてしました。そしてあんな事件を起してアラブに逃げてきましたが、そのアラブに於いても親子は親子であり、国籍人種、宗教の壁が厳然として存在し、自分はいくまで一日本人としてしか遇えられていない事を知り自分の愚かさを反省させられました。こうしていると日本の自由とおおらかさ、山河がなつかしく望郷の念にかられています。然し乍ら今日日本に帰れば逮捕されて裁判の上死刑になるのは必至だから帰国出来ないが、故国を毎日夢に迄見て涙を流している」と聞きました。

私達は何処までいっても親子は親子であり、日本人は日本人であります。それぞれに基本を弁えた理念でなければならぬのに基本を忘れて飛躍した主張行動では、此の人と同じ様なものであります。我昔所造諸悪行の懺悔の文を繰り返し誦誦して、仏教で説くところの四恩に感謝し、合掌の生活に徹し、二利双修の日々に精進努力致したいものであります。

積尊涅槃会も重ねること九回になった。各区の仏教会会員の絶大な御支援のたまもので、毎回大成功に終了している。

今回は磯子区仏教会の御協力のもと、真言宗「海照寺」さまを会場にお借りして、特に真言宗の青年僧が一同に集まり大法要を厳修出来た事は実にすばらしい涅槃会となった。磯区仏教会は縦横のつながりを密にして円満に活動されている様子が実によく拝見することが出来た。また集まった信者の出ればええ実によく熱心であった。

磯子区仏教会の寺族のかたがたが熱心に活動されている様子は他に見られないものがあった。これからは僧侶と共に寺族の協力が大変必要で、その寺族が信者を檀家を集め一同に協力してもらえてこそ本当の涅槃会修行が出来るものと教えられるものがありました。

当日は二月十五日釈尊御入寂の正当日で、寒の時であったが多数の参詣のもと、午後二時より市仏連副会長森山正城老師の開式のことばではじまり、一同三礼、三帰依文の唱和、そして市仏連会長柳下隆侃老師の御導師のもと、啓白文の奉誦、そして般若心経の読経の中一般参詣者のお焼香、そして

回向の後一同三礼をして法要を相すませる事ができた。

特に真言宗青年僧から流れる読経には、いくえにもいくえにも積尊の教えの尊さと重さが、身にしみて来る様な気がした。実にすばらしい法要で、さぞ積尊も御安心なされた事であろう。

法要の終了後小休をとつて市仏連会長と横浜市積尊奉誦会会長の御挨拶があつて、引続いて記念講演の開催となった。

講師は特に海照寺方丈さまの御指導で「積尊のねはん」と題して東洋大学教授で文学博士である「金岡秀友先生」をお招きして約一時間半ほどのお話をさせていただきました。特に積尊の教えの深さについて熱心にプリントまで用意

されて専門的な事までお話下さいました。大変さむい中でも参詣者一同本心に熱心に耳をかたむけ積尊の教えの深さにまゆげにしわをよせて、なるほどとなつておりました。いくぶん専門的な話のためむずかしいと言ふ声もありましたが、実によかったと思います。

そして終了後午後六時、雪がちらつく中、金岡先生をかこんで懇談会を持ち八時すぎ、雪で白くなつた道をふみしめて、それぞれ帰宅の途につきました。磯子区仏教会の方丈さま、それに真言宗の青年僧のみなさん本心に御協力ありがとうございました。ぜひこのお力を世の為、人の為にそそがれますことを祈念して御礼のことばにさせていただきます。

文責玄野

第九回積尊涅槃会



釈尊の涅槃

東洋大学教授
金岡秀友先生

釈尊の生涯は從兜率天退から入於涅槃まで八つに分けることが出来ます。八相成道と申しますがわかりやすくお話しをしますと、皆様もご承知の通り四月八日に、釈迦さまは、ルンビニー園の無憂樹又は娑羅又樹と云う花園でご誕生なされております。

ご成長されるにしたがって人生の苦惱、無常をお感じになり、愛妃ヤツダラと、愛児ラゴラをお城にのこし出城してご修行に入られました。長年の苦行の後、尼連禪河と云う川で沐浴し菩提樹下に端座してついにここで成道、お悟りをひらかれたのであります。

これから釈迦さまのご説法の旅が続くわけですが、最初の場所がベナレス市の郊外、鹿野苑で初転法輪が行われました。

人は苦行、楽行の極端をさけて、中道を行ずる事が正覚、涅槃に到達する道であると、この中道に、八聖道があり四諦、十二因縁と仏教の根本がここから始まり、五十

年の歳月をかけてインド各地をお廻りになりました。

晩年に北方の波婆城と云うところで信者からご馳走になった食事もとて体調をこわし俱尸那迦羅城の沙羅双樹の樹下において八十年の生涯をとじたのであります。

お釈迦さまのご生涯の最後は入於涅槃と申しましたが、亡くなった事と云う命日と今一つその日を堺に出発と云う意味もあります。お釈迦さまの説かれた法を永久に継ぎ続けてゆくことによってお釈迦さまは永遠に生きておられる。

お釈迦さまのご一生は行方無事で行いつくして意にまかせて死んでおられる。それこそ大往生である、七十年は七十年、八十年は八十年、お迎えが来たら安らかに死んで行けるのが悟りの境地涅槃である。

憎しみや争いを断じて、正しく悔いなき日々を、日々是好日であるように精進致しましょう。

文責 森山



印度仏跡参拝旅行記

大円寺住職
佐藤 泰心

本年三月廿八日より四月四日迄印度仏跡参拝に参りました。彼の地を一巡する事は列車によって廻る由にて此の列車は昨年十一月廿八日に第一回が出、こんどで第十回目である由、写真で見ると実に立派な列車で客室も食堂車も休憩室もあって二人一部屋でよく出来ているとの由故、参加する事になりました。私はインド国内列車と言いますからもうずと以前に出来た列車だと思っていました。本当に出来たばかりの列車でしかも列車に毎夕帰着しシャワーをあげ寝室で休むのだとは思いませんでした。廿八日カルカッタに着き世界第二の都市で三百万人口に近い事でしたが、余り混雑した所は通らずエアポートホテルに泊りました。夕食はホテルで出ましたがホテルの食堂は広く料理が一段高い所に並べられ、好きなものを取ってくれと言われ、大皿を持って一通り歩きました。小形のトマト、キウリ、大根の輪切りもある野菜と煮物揚物とにかく初めての食物でカレトラしいものもスキ通ったもので手がつけられませんでした。食後の野菜も終わる頃小形のみかんやリンゴが出ました。廿九日朝食後、市内観光、ジャイナ教寺院、ビクトリア記念堂を見て廻り夕食は中華料理であったので変わったものが出るかと思つたら

昨夕と同じ食事でがっかりしました。夕七時ホテルを出発、豪華列車で「ガヤ」へ向け出発、一番前が食堂車、次が喫煙車となり一方の出口に近い所に金色のお釈迦様が座しています。一同礼拝して通つて行く、その次が我々の列車で四輛続く、一部室二人づつ上下二段の寝台(七尺位)しかも皆新しいものでした。三十日五時半食堂車にて朝食後、列車はブッタガヤに着く。下車してバスに乗り大塔、悟りを開いた菩提樹を拝し日本寺へ行く。禅宗らしい三十才位の坊さんが一人居た。昼食後、ナラダ大学の基礎のみ残っていた広い所を見学、ラジキールに廻る。途中隘路に至りその左右が昔の王舎城跡にて、大きな城のあった所を見学、観無量壽經に出ている所だ。城跡らしい所で左右に両方にいくつも堀や道や囲いの跡らしいものがある。それから霊鷲山に向かう、山の下でバスを降り一番先に家内が飛び出して上がる、次にそのあとを登る、七、八尺幅の大きな石段だ。正面上の方に石で積んだ大きい台状になったものが見える、あれが霊鷲山だと言う。喜び勇んで家内のあとを登る。振り返るとあと一同は五十米位登った所で何やら相談しているらしい。様子を見てみると又一同が登ってくる。安心して登る。三百米位の所に釈迦様が十二年間居られ、法華経や阿彌陀経を説いた所と言われる霊鷲山がそこに見える所まで来て登らないと言うのは少しおかしい。一同殆ど全員が登る。そ

れから竹林精舎がある所に向かう、大きな竹の株が沢山見える、観光後、ラジキールより列車でブッタガヤへ。四時間かかってガヤへ着き列車の吾が家へ、翌三十一日朝食を終わる五時十五分バスにてサルナートへ向かう。水浴状況をボートにて見学する。終わりに仏教寺院跡、ダメック大塔、博物館等を見学、夕刻列車にてゴラクブルに翌朝到着、八時バスにて釈尊誕生の地ルンビニーへ四時間につく。ランチボックスを持って行った。新しい寺院が出来ていた。隣に小学校らしいものがあり四、五十人の生徒が出てきた。ルンビニーの街はあの昔、本郷功次郎主演による釈尊伝を見たルンビニーの町とは天地の違いも左も一間にも満たないみすばらしい冊の中にダバコ三四種類、又は四五種類、又は五種類の菓物等をおいた店ばかり、ここがルンビニーの街だと言われ殆ど当惑した所でした。四月二日列車中五時半起床、六時半朝食七時半出発、クシナカラ十二時到着、同地観光、涅槃堂等夕食は列車食堂にて行い、廿二時カルカッタに向かい出発、三日エアポートホテルに到着、夕食後インド航空でバンコク、香港経由帰宅致しました。列車中にては毎食後水筒様ものでお湯を貰いましたが車中のビールも五日目にはなくなり飲物に不自由しました。これが普通十二、三日間かかるとお腹の調子もおかしくなる所でしたが自宅へ帰ってからです。助かりました。(中区仏教会会長)

横浜市仏教連合会 昭和58年度収支計算書

総括表 { 収入金 1,719,068 円
支出金 1,462,400 円
差引額 256,668 円

(自 昭和58年4月1日～至 昭和59年3月31日)

横浜市仏教連合会 昭和59年度歳入歳出予算書

総括表 { 歳入金 1,880,668 円
歳出金 1,880,668 円
差引額 0 円

(自 昭和59年4月1日～至 昭和60年3月31日)

収 入 の 部			
科 目	予算額	決算額	△ 増 減
① 会 費 収 入	824,000	824,000	
1. 会 費	824,000	824,000	
鶴見区	70,000	70,000	
神奈川区	60,000	60,000	
港北区	114,000	114,000	
緑区	80,000	80,000	
西区	58,000	58,000	
中区	46,000	46,000	
保土ヶ谷・旭区	56,000	56,000	
南・港南区	114,000	114,000	
磯子区	38,000	38,000	
金沢区	56,000	56,000	
戸塚区	120,000	120,000	
瀬谷区	16,000	16,000	
② 雑 部 金	780,000	831,090	
1. 雑 入 金	500,000	576,090	
2. 寄附金及繰入金	280,000	255,000	
③ 過年度収入金	0	0	
1. 会 費	0	0	
④ 前年度繰越金	63,178	63,978	
1. 前年度繰越金	63,978	〃	
収 入 合 計	1,667,978	1,719,068	

歳 入 の 部			
科 目	予算額	前年度予算額	差引増減△
① 会 費 収 入	824,000		
1. 会 費	824,000		
鶴見区	70,000		
神奈川区	60,000		
港北区	114,000		
緑区	80,000		
西区	58,000		
中区	46,000		
保土ヶ谷・旭区	56,000		
南・港南区	114,000		
磯子区	38,000		
金沢区	56,000		
戸塚区	120,000		
瀬谷区	16,000		
② 雑 部 金	800,000		
1. 雑 入 金	500,000		
2. 寄附金及繰入金	300,000		
③ 過年度収入金	0		
1. 会 費	0		
④ 前年度繰越金	256,668		
1. 前年度繰越金	〃		
収 入 合 計	1,880,668		

支 出 の 部			
科 目	予算額	決算額	△ 増 減
① 総 務 費	200,000	207,100	
1. 事 務 所 費	50,000	114,300	
2. 事 務 渉 外 費	50,000	20,000	
3. 通 信 交 通 費	100,000	72,800	
② 需 要 費	520,000	523,400	
1. 会 議 費	470,000	503,400	
2. 慶 弔 費	50,000	20,000	
③ 事 業 費	820,000	691,900	
1. 税務墓地委員会費	20,000	0	
2. 涅槃法要費	300,000	190,000	
3. 会報発刊費	200,000	201,900	
4. 奉讃会事業協力費	300,000	300,000	
④ 助成金・負担金	120,000	40,000	
1. 助 成 金	100,000	20,000	
2. 負 担 金	20,000	20,000	
⑤ 雑 支 出 金	0	0	
1. 過年度支出金	0	0	
2. 雑 支 出 金	0	0	
⑥ 予 備 費	7,978	0	
1. 予 備 費	7,978	0	
合 計	1,667,978	1,462,400	

歳 出 の 部			
科 目	予算額	前年度予算額	差引増減△
① 総 務 費	250,000		
1. 事 務 所 費	100,000		
2. 事 務 渉 外 費	50,000		
3. 通 信 交 通 費	100,000		
② 需 要 費	570,000		
1. 会 議 費	520,000		
2. 慶 弔 費	50,000		
③ 事 業 費	870,000		
1. 税務墓地委員会費	20,000		
2. 涅槃法要費	300,000		
3. 会報発刊費	250,000		
4. 奉讃会事業協力費	300,000		
④ 助成金・負担金	170,000		
1. 助 成 金	150,000		
2. 負 担 金	20,000		
⑤ 雑 支 出 金	0		
1. 過年度支出金	0		
2. 雑 支 出 金	0		
⑥ 予 備 費	20,668		
1. 予 備 費	20,668		
合 計	1,880,668		

次年度繰越金 256,668円

監査 吉本十三 ㊟
野沢隆幸 ㊟

昭和59年5月22日

昭和59年4月17日
会計監査の結果相違なきことを報告します。

上記の通り歳入歳出の予算案を提出いたします。

上記のとおり収支決算書を提出致します。

横浜市仏教連合会 会長 柳下隆侃 ㊟

昭和59年5月22日
横浜市仏教連合会 会長 柳下隆侃 ㊟

支 部 だ よ り

瀬谷仏教会

古来、人々は福を求め、幸多い生活のため栄々と勉め励んでまいりました。人々の心の中にあるこうした願いは福神信仰として、いろいろな形で祀られ参拝されてきました。瀬谷地区にも古くからそうした信仰があり、因縁深い仏閣が多く、福神が祀られておりました。本年一月より横浜瀬谷八福神を設けました。

- 大黒天 妙光寺
- 恵比寿天 善昌寺
- 毘沙門天 徳善寺
- 弁財天 宝蔵寺
- 布袋尊 西福寺
- 福祿寿 宗川寺
- 寿老人 最勝寺
- グルマ大師 長天寺

以上、八ヶ寺に福神を奉祀して居ります。福神を参拝し、その御加護を得ることは、もとより福神に備わる福徳を心身に備え厄除開運福寿長寿家庭円満諸願成就が招来されるとして古来から、多くの人々に日頃参詣されてまいりました。今後は桜、梅、アジサイ、ツツジ、サツキ等、多くの樹木を植えて瀬谷の名所にするのを、会員一同張り切つて居ります。

鶴見区仏教会

市仏教会長並びに役員御一同様のお骨折りにより第一回仏跡参拝には鶴見区仏教会も参加させて頂

き大変有難うございました。

天王院十二名 宝蔵院二十八名
 正行寺 五名 宗泉寺 四名
 長松寺 三名 専念寺 二名
 宝泉寺 二名の計五十六名の大勢で参加させて頂きました。
 また鶴見区仏教会では三井銀行の御協力を得、朝早くから駐車場を拝借し、安全を期する事が出来その上飲物等の接待を受け誠に有り難く感謝致して居ります。

参加者一同の感想としては、
 一、市仏として五百名以上の大団体の為旅行社のサービスが大変よかったです。
 一、皇居内の説明がよく聞こえなかつた。
 一、市仏役員や旅行社の方々わざわざ鶴見区へ御挨拶に来て下さったこと。

一、仏跡参拝の目玉である浅草寺様をすみずみまで参詣させて頂いたこと。
 一、特に隅田川下りでは一般やら鳩パスの一行やら市仏団体等多種多様なかと同席できたこと等の話がありましたので御報告申し上げます。

金沢区仏教会

昭和五十九年一月二十一日 金沢区仏教会定期総会及新年会開催
 昭和五十九年事業計画発表
 ○一月二十六日 金沢区釈尊奉讃会、仏教会共催遠州七福神巡り、研修旅行、五十七名の参加者一泊

二日の日程

○二月十五日 於伝心寺 涅槃會
 法要厳修及詠歌一斉奉詠大会開催
 ○三月十日 於長生寺 区仏教会臨時総会開催
 ○四月八日 於長生寺 区仏教会及金沢区釈尊奉讃会共催花まつり大会開催 プラスバンド、詠歌講、稚児七十名参加、総勢三百八十名の練供養、盛会裡に終る。



○五月十九日 於金藏院 区仏定期総会、昭和五十八年度収支決算及五十九年度予算審議
 ○五月二十九日 於稱名寺 金沢区釈尊奉讃会役員会開催
 ○六月五日 於県戦没者慰霊堂 月例法要に奉仕
 ○六月十日 於金藏院 区仏理事会開催、夏季文化講座及交通安全折願法要について審議
 ○六月十八日 金沢区釈尊奉讃会及区仏教会共催の仏跡参拝旅行、参加者百五十三名

○六月二十一日 市釈尊奉讃会及市仏連合会共催、皇居参観、仏跡参拝旅行に七十二名参加

西区仏教会

鎌倉七福神巡り 十月
 八幡宮弁財天、淨智寺布袋尊、妙隆寺壽老人、本覚寺夷神、安養院毘沙門天、長谷寺大黒天、御霊神社福祿壽をバス一台で巡り参加者に大変好評だった。
 実務研修会 十一月
 西区、中区合同の研修会を大円寺を会場に緑区福聚院齊藤師を講師に招き盛会だった。
 歳末助け合い募金 十二月
 毎年区内全寺院に募金箱を置いてもらい、助け合い募金に協力して頂き、おかげで四十二万円集まり区内の各施設及び全国の共同募金会に寄付した。
 新年会及び臨時総会 一月
 臨時総会をかねて新年会を開き決意と親睦を新たにしました。
 花まつり 四月
 今年は円満寺新霊殿を会場に、稚児多数参加し、区内寺院出仕のもと、柳下市仏連会長の祝辞を頂戴し、利正寺保育園園児のお遊戯あり、盛会だった。
 総会及び税務研修会 六月
 定例総会のと、中税務署係官二人を招いて行った税務研修会は時節柄出席者全員真剣に聞き、活発な質疑があり、非常に有意義な研修会であった。

南港南区仏教会

昭和五十九年度の定期総会が六

月廿二日午後三時より、蒔田勝国寺客殿に於て開かれた。出席者は少数であったが前以つて委任状が提出されたいので総会は成立、議題に随つて、初めに会長実浄文英師の挨拶と事業報告、次いで會計小西日真より五十八年度の決算と五十九年の予算案が、全員によって審議された。予算総額は六拾七万七千参百円である。

この内、事業費として釈尊降誕会六万円、年末助け合い老人ホームへの寄付が拾万円計上されて四月十四日、勝国寺を会場に奉行された。灌仏会法要では参詣の父兄や子供達が誕生仏に甘茶を灑いだ。このあと小西日真が一同に法話をし、皆に一袋参百円のお菓子配った。花まつりに参加した子供達が将来立派な仏教徒になる事を祈る。

お 願 い

今回は各支部の活動が盛りだくさんになり、このページではおさまりにきれなくなつてしまつた。こんなにも多くの支部だよりが寄せられたのは、史上はじめてである。うれしいかぎりである。次ページにも支部だよりをのせさせていた

戸塚区仏教会

本年度行事並に予定左記の通り
 一、釈尊誕生会(花まつり)
 四月八日吉田町妙秀寺にて午後二時法要、引き続き清興実施
 午前中曇天小雨あるも午後より快晴となり、絶好の法要日和となる。定刻近く日曜日の為子供達の出足もよく、約一五〇名宝冠、首飾り、かし類を配布す。庭前にて野立点前、甘茶接待、しる粉のもてなしをなす。
 灌仏法要には約二百名、本堂満席となる。法要終了後箏曲披露、日本舞踊約四十分。祝杯盛会裡に終了す。

支部だより

- 二、戦没者慰霊祭
五月廿七日十時より区役所忠魂碑前にて実施す。
- 三、戸塚区仏教会総会
六月二日戸塚町清浄院にて。午後二時班長会議三時総会。行事、会計報告等如常。本年は役員改選の年なるも諸種の都合により一ヶ年延期す。
- 四、七月実施の社明運動に協力
- 五、盆会流灯会
八月十六日柏尾川にて執行予定
- 六、明年二月税務研修会
- 七、その他
市仏連行事に参加協力
県仏諸行事に参加協力

緑区仏教会

緑区仏教会では去る五月二十九

日総会に於いて、会長宝袋寺安田一雄師が退任され、副会長清原春香師が新会長に就任されました。同副会長には福聚院齊藤隆法師が留任、真照寺雲井孝師が新しく就任されました。

保土ヶ谷・旭区仏教会

四月より役員が新しくなりました。新役員は次の通りです。
 会長 安井寛明師 和田真福寺
 副会長 新井宝全師 川井長源寺
 森山正城師 岩井福聚寺

会計 中島旭明師 神戸天徳院
 事務局 渡井奎一師 市沢長見寺
 山本尚亨師 仏向正福院
 新会長よりのコメント
 税及び戒名問題等既成仏教に対する社会の批判が一段と厳しい折から、超宗派で常に対処し、具体的に且積極的に地域社会とのコミュニケーションを計り、伝道教化と福祉に力を入れる活動を進めたいと思う。
 四月からの活動状況
 花まつり
 区仏より会員各寺へポスターとゴム風船の配布をし、各寺では灌仏会や甘茶の接待を行った。
 各寺とも子どもを中心にくさんの参詣者を迎えた模様。また、例年行っている老人福祉施設の保

土ヶ谷恵風ホーム、同岩井ホーム、旭区白寿荘に代表が趣き、灌仏、法話、交流会等を行い金一封を寄贈して花まつりを祝った。

五月十七日には皇居特別参観を中心として浅草寺参詣等盛り沢山の内容で行い、今まで最高のバス十二台とこれまた史上最高の人数であった。
 とくに保土ヶ谷旭区仏教会では



宗派をのりこえて、僧と俗が一体し、お互いに手と手をとって活動をして来たその成果が、今ここに表れたものと思われる。
 今後とも各寺院と檀信徒等とを密に手をとってすばらしい世の中を作り上げてゆくべく努力をしたいと思えます。これからも皆さまがたのご協力を切にお願い申し上げます。

事務日誌

- 59・2・15 第九会釈尊涅槃会の開催於磯子海照寺
- 59・2・15 記念講演の開催於磯子海照寺
- 59・4・6 西区仏教会花まつり行事に参列於円満寺
- 59・4・7 保土ヶ谷旭区仏教会花まつりに参列
- 59・4・17 常務理事会の開催於御所台
- 59・5・23 総会の開催於西有寺
- 59・5・23 常務理事会の開催於福聚寺
- 59・6・8 常務理事会の開催於福聚寺
- 59・6・21 市仏連・奉讃会共催で第一回仏跡参拝旅行の実施(皇居)
- 59・6・22 仏跡参拝旅行二度目の実施(皇居)
- 59・6・27 仏跡参拝旅行三度目の実施(皇居)
- 59・6・27 三役会の開催於中区大円寺
- 59・7・30 三役会の開催於福聚寺

計 報

故 横山ハルミ様
 当横浜市仏教連合会参与横山敏明老師の侍史であるハルミ様が去る七月二十四日お亡くなりになりました。大変お世話になりました。本葬は九月二日の大夜、本葬儀は九月三日西有寺に於いておられます。

編集後記

○本年は春の天候が定まらず、雪が多くて各御寺院でも除雪作業が大変な仕事のようにあった。本会の活動も寒さのせいかなかなか仕事かと思うようにはかどらなかつた。
 ○非常に寒く雪のふる中での涅槃会は実にすばらかつた。
 雪のせいかな、とつても気持ちがおちついて出来た。また磯子区の御寺院にも増して寺族の御婦人への参加にはとつても温かさが身に伝わるようであった。
 ○本会の総会も数を重ねること十一回目となった。しかし、御寺院の出席数がちよつと少ない感じがする。それぞれに御多忙だと思ふが年に一度の総会ですからせつとも差し控つて出席してほしいものである。
 ○本年は第一回目の仏跡参拝旅行を試みた。役員内部にも賛成しかねる御寺院もあったが、各区の仏教会長老に特に骨をおつていただいたのが成功の賜物だと大変感謝申し上げる次第である。また事故がなかったのも幸で、ピース観光の業者のゆきとどいたサーピスの成果であると思う。こうして仏跡参拝旅行を行うたびに寺院が、そして在家が手と手をつなぎあい、やがては横浜市仏教徒が一同に手をつなぐ日もそう遠い日の事ではないだろう。お寺さんがんばって次回もご協力をお願いします。